

公益社団法人大阪狭山市シルバー人材センター  
令和2年度 事業報告

令和2年度は、新型コロナウイルスによる感染が世界規模で広がり、我が国においても感染が急速に広がり、令和2年4月7日には、大阪府をはじめ7都府県に緊急事態宣言が発出され、同年4月16日には全国に発出される状況となりました。これに伴い、外出制限やイベントの自粛等が求められ、日常生活にも大きな影響が出ました。

さらに、令和3年に入ると再び感染が拡大傾向となり、1月14日には2度目の緊急事態宣言が発出され、社会経済状況に大きな影響を及ぼしています。

このことに伴い、全国的な飲食店の営業時間短縮や公共施設の開館時間の短縮など、日本経済にも大きな打撃を与えており、ひいてはシルバー人材センターの会員就業にも影響を与えています。

このように新型コロナウイルスの感染が広がる中、当センターにおいては、引き続きシルバー人材センターに対する地域の期待に応えていくため、安全就業を基本に会員拡大を最大の目標とし、合わせて、地域のコミュニティづくりに努めるとともに、就業機会の拡大をすすめ、高齢者が健康で、生きがいをもって第2の人生を送れるよう、取り組みを進めました。

以下、令和2年度の事業実施状況について報告いたします。

## 事業実施状況

### 1. 会員の拡大と普及啓発活動の推進

- (1) 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、例年実施している街頭啓発や市のイベントにおける当センターの事業等のPRは実施することができませんでしたが、わかりやすいチラシを新たに作成し、市内一円に配布しました。
- (2) 会報誌を多くの市民に読んでもらえるよう、市に協力を仰ぎ、市の各窓口到会報誌やパンフレットを配置しました。また、情報発信を充実するため見やすいホームページを作成しました。
- (3) 会員一人ひとりが啓発担当となり、「1会員1名の会員勧誘」を目標にして、会員の拡大に努めました。
- (4) 今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、ボランティア活動は実施することができませんでした。
- (5) 会員同士が自主的に活動している同好会の活動報告等について、会報誌に取り上げ、就業外での活動をPRし、多くの仲間づくりに努めました。
- (6) 市の広報誌に当シルバーの関連記事を年5回（令和2年4月号、5月号、7月号、9月号、10月号、11月号）掲載していただき、特に1

0月号ではシルバー人材センターを特集していただき、広く市民にシルバー事業への理解を深めました。

## 2. 就業機会の確保と適正就業の推進

- (1) 会員一人ひとりがセンターの広報担当として、口コミによる就業開拓活動を推進し、新規の就業確保に努めました。
- (2) 就業基準に関する要綱に基づき、会員に公平な就業機会の提供を図り、未就業会員の解消に努めました。
- (3) シルバー派遣事業を推進するため、就業開拓を積極的に行うとともに希望する会員に対し各種情報の提供、就業機会の拡大に努めました。
- (4) 会員への情報提供として、事務所の掲示板を活用して情報提供に努めました。

## 3. 安全就業と健康管理の推進

- (1) 安全委員会で、事故の原因分析を行い、事故の再発防止に努めるとともに、会報誌を活用し、安全就業や健康管理の啓発に努めました。
- (2) 安全委員や安全就業推進員による就業先への安全パトロールを定期的に実施し、就業現場の安全指導に努めました。また、新規受注にあたっては、事前に就業環境を把握し、安全確保に努めました。
- (3) 就業中の事故や就業途上の事故防止を図るため交通安全に関する安全講習会を企画しましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。また、入会説明会においては安全就業の重要性を十分説明し、安全意識の高揚に努めました。
- (4) 会員の健康管理について、認識を深めるため、会報誌を通じて健康に関する記事を掲載しましたが、講習会は新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催することができませんでした。

## 4. 研修・講習会の実施

- (1) 会員に対し、各種研修会、講習会等を実施し、会員のスキルアップを図り、発注者の満足度向上に努めました。また、剪定をはじめとする専門的な技術の後継者育成に努めました。
- (2) 派遣会員について、キャリアアップに資する教育研修を実施し、接遇の向上や個人のキャリアアップに努めました。

## 5. その他

- (1) 事務局職員の資質の向上を図るため、関係機関等主催の各種研修会へ積極的に参加するとともに、他市のセンターとの情報交換を図り、当センターの発展に努めました。
- (2) 会員同士の親睦を図るため個々の趣味を生かした活動を行えるよう、会報誌等でPRに努めました。

(3) 会員の知識、技術の習得する場や受注した仕事の作業場及び各種研修会、会議の場としてワークプラザを有効活用し、会員の活動拠点としても積極的に活用しました。